

わくわく中部

中部教育局社会教育担当だより
令和8年6月12日発行



写真:シジミ漁(湯梨浜町東郷池)

6月の体験活動イベント

子どもたちの体験活動を応援します!

- | | | |
|---------------|-----------------------|--------------|
| 13日(土)~14日(日) | 中部発!食のパラダイスフェスタ2026 | (倉吉パークスクエア) |
| 14日(日) | 「打吹公園で初夏の野鳥を探そう!」 | (倉吉市仲ノ町) |
| 21日(日) | 旧国鉄倉吉線廃線跡ウォーキングオープンデー | (関金都市交流センター) |
| 27日(土) | 「おやこdeのあそび」 | (琴浦町別所 椿の森) |

ちゅうぶくんが行く!

中部のヒト・モノ・コトを訪ねて



倉吉市立図書館(倉吉市)



倉吉交流プラザの1階、倉吉市立図書館に行ってきました。この日は「おはなしかい」で、絵本の読み聞かせがありました。この日は日本語の絵本でしたが、英語や韓国語のネイティブの方による読み聞かせや、むかし話、あかちゃん向けの「おはなしかい」もされています。読み聞かせスペースは仕切られていて、子どもたちが集中できるだけでなく、他の利用者の皆さんへの配慮も感じられました。赤ちゃんから大人まで安心して過ごせる居場所として、また、地域の生涯学習の拠点として、図書館は大切な場所であることを改めて感じました!

子ども用の書架の近くには、絵本のキャラクターのぬいぐるみが置かれており、子どもたちが本に興味を持てる工夫がされていました。

また、子どもの専用席も設けてあり、安心して読書できる環境が整えられていました!



優しい声で読み聞かせをされていました!



子どもの読書週間の展示がありました!



県立美術館の情報も展示されていました!



みんなで集い学び合う生涯学習!

生

生涯学習とは、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習の意で用いられます。また、教育基本法第3条においては、生涯学習の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と規定されております。

「出典：文部科学省HPより抜粋」

ちゅうぶくん

～公民館は「いつ行ってもいいところ」～



米

5月12日(火)・18日(月) 聖郷小学校

聖郷小学校5年生は、地域のボランティアの方と共に米作りの学習をしています。5月12日は種もみを選ぶ塩水選を、5月18日は子ども園の園児と一緒に、田植えを行いました。

塩水選では種もみを塩水に漬けて、沈んだ種もみだけを選びました。どの班も地域の方の説明のとおり、種もみを選ぶことができていました。選んだ種もみはバケツ稲として、5年生一人ひとりがこれから育てる予定とのことでした。地域の方からは、「米作りを子どもたちに伝えたい」という思いも聞かれ、地域とのつながりで学びが深まっていると感じられました。

田植えでは、園児と5年生がペアになって、園児のフォローをしながら、少しずつ田植えをしました。「苗を3本ずつとって、印のついているところに植える」という指示を守って、園児も見守る5年生の姿は、とても頼もしく感じられました。

これから5年生は、バケツ稲の水の管理などを行いながら、稲の成長を見守っていきます。秋には稲刈りも予定されており、自分たちで育てたお米を収穫する日を、子どもたちは今から楽しみにしている様子でした。

地域のボランティアの方々や園児との関わりを通して、米作りの大変さや喜びだけでなく、人と協力することの大切さについても学ぶことのできた、貴重な学習活動となりました。



泥の感触に戸惑っている園児に、優しい声掛けをしたり、手をつないで寄り添うペアの5年生の姿は、とても優しく思いやりにあふれていました!

【トピックス】「中高生に影響を与える大学生たち!」

全国大会、中四国大会よりも多くの実践発表を聞くことができる、中国・四国・九州地区生涯学習実践研究会に行ってきました。

多くの実践事例の中で、一番印象的だったのは、愛媛県の学生団体「ブーメランカレッジ」の実践でした。高校の同級生たちが、大学進学時にブーメランカレッジを発足し、企業のスポンサーとクラウドファンディングなどで運営し、ふるさとの価値を再発見する中高生対象の3泊4日の合宿や、月1回の地域食堂などを実施しているという、素晴らしい内容でした。

大学生が身近にいない地域で、定期的に大学生が中高生と関わりを持ち続けていることで、親でも先生でもない「身近なロールモデル」として、中高生たちに大きな影響を与えていました。

子どもたちが、ふるさとを大切に思う気持ちを育むためには、地域の若い世代の人とたくさん出会い、共にふるさどについて学ぶことが、とても大切だと感じました。

